

東北アジアを巡る核状況

梅林 宏道（ピースデポ特別顧問）

§ グローバルな核状況と地域

「核兵器のない世界」 フーバー・プランのインパクト

元米政府高官4人のアピール：シュルツ、ペリー、キッシンジャー、ナン

「核兵器のない世界」を支える法システムとは

NPT

CTBT

FMCT

IAEA

非核兵器地帯条約、とりわけ検証システム

§ 北東アジアにおける核抑止体制の動向

日米のミサイル防衛

長距離・監視追跡、識別・戦闘指令情報、洋上迎撃（イージス艦のSM3）

中国の戦略的、戦域的反発

米国のグローバル・ストライク

核・非核両用のグローバルな攻撃力

グアムの拠点化、それに伴う嘉手納、横須賀の役割

中国の核抑止力

ゆっくりとした近代化

下方修正される推定弾頭数

ロシアの核抑止力

全体としては復活を誇示

原潜の常時パトロールはしていない（太平洋艦隊でも同じ）

北朝鮮の核兵器計画

6か国協議10・3合意（07年）「第2段階の行動」

行動対行動の現実的整理

A 「寧辺の核施設の無能力化」対「重油100万トン相当の支援」

B 「プルトニウム関係の正確で完全な申告」

対「米国のテロ支援国家指定、対敵通商法適用の解除」

しかし、申告の検証で行き詰まっている

§ 北東アジア非核兵器地帯の新しい局面

提案の歴史（次ページ）

スリー・プラス・スリー構想とモデル条約

1. 地域的局面

- 6 か国協議に作業部会「北東アジアの平和及び安全のメカニズム」 (07. 2. 13)
- 6 か国協議プレスコミュニケ (08. 7. 12)
 - 「『北東アジアの平和及び安全に関する指針』に関する議論を継続する」
 - 「検証メカニズム」の設置

2. 世界的局面

- 2000 年 N P T 再検討会議 「保有核兵器の完全廃棄の明確な約束」
- 2006 年 ハンス・ブリックス (大量破壊兵器委員会報告)
 - アナン国連事務総長
 - 核兵器に依存しない安全保障への転換
- 2007～8 年 フーパー・プラン
 - 「核兵器のない世界」
 - アジアにおける貢献として北東アジア非核兵器地帯は最適の形

文献から見た北東アジア非核兵器地帯の提案

| 年月 | 提案者 | 提案の内容 |
|----------|-----------|---|
| 1995年 3月 | エンディコットら | 非戦略核兵器に限定した限定的非核兵器地帯案。板門店を中心に半径2000kmの円形案、その後、米国アラスカ州の一部などを含む楕円形案を提案。 |
| 1995年 | アンドルー・マック | 韓国、北朝鮮、日本、台湾を含む非核兵器地帯案。 |
| 1996年 3月 | 金子熊夫 | 板門店を中心に半径2000kmの円形案。核保有国と非保有国に別々の義務を課す。 |
| 1996年 5月 | 梅林宏道 | 3つの非核兵器国（日本、韓国、北朝鮮）と3つの核兵器国による「スリー・プラス・スリー案」。 |
| 1997年10月 | エンディコットら | 第一段階として、韓国、日本、モンゴル、（北朝鮮）という非核兵器国による限定的非核兵器地帯を創設する提案。 |
| 2004年 4月 | 梅林宏道ら | 「地帯内国家」（韓国、北朝鮮、日本）と「近隣核兵器国」（米、中）の「スリー・プラス・スリー案」に基づくモデル条約提案。 |
| 2007年春 | エンフサイハン | 一国非核兵器地位の積み重ねによる地帯形成の方法論を提唱。 |